

茶のわん ゆんたく

お茶を飲みながら、
ぎのわんの歴史を
のぞいてみませんか？



かつての十字路、 今の十字路〜真栄原〜

写真1は、現在の真栄原十字路です。中城や西原、首里方面、国道58号へ向かう通りとして利用されています。この十字路から一つ裏側の路地が戦前までの十字路で、「ヒャーガーラカジマヤー」と呼ばれていました(写真2)。

かつてこのカジマヤー(十字路)には、薬屋や肉屋、理髪店、蹄鉄屋、診療所、たばこ屋、食堂、しょう油屋、レコード屋、材木屋などがあり、さらに通りの一部には水路も通り、近くには嘉数国民学校もありました。浦添の西原方面からは宜野湾や普天間に向かう通り



▲写真1 現在の真栄原十字路
2019(令和元)年



▲写真2 ヒャーガーラカジマヤー-2019(令和元)年
通りを越えて見えるのは嘉数中学校



▲写真3 並松が残る佐真下の通り
1970(昭和45)年

として、また中城や我如古方面からはケンドウ(県道。現在の国号58号に相当)へ向かう途中の休憩地でした。そのためか十字路に軒を連ねる店もさまざまでした。

また、カジマヤーは「ジノンナンマチ(宜野湾並松)」の通りでもありました。嘉数から普天間までの約6キロの通りにリュウキュウマツ(琉球松)の並木道がありました。シチグワチの旧盆の初日、ウンケー(お迎え)には、マツの根元の一部を切り取り、トウブシ(小さな松明)として火を灯し、ウヤフアーフジ(ご先祖様)をお迎えした家庭もありました。今では松の根ではなく、ロウソクや線香を灯してご先祖様をお迎えしますが、敬う心は今も受け継がれています。

今ではヒャーガーラカジマヤーの様子を含め、通り全体が変わりました(写真3)が、遊れば人びとが行き交う交流の場であると共に、ナンマチの存在も付近で暮らす人びとにとっても大きな存在であったことでしょう。

【問合せ】

市立博物館 ☎ 870-9317

はくぶつかんの 部屋 51

宜野湾市の歴史や文化などを
紹介します。



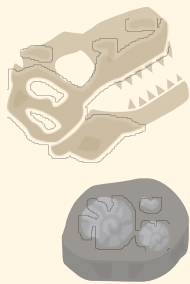
市立博物館
イメージキャラクター
天女ちゃん

この夏、博物館に 「化石」が大集結！

今年の夏、市立博物館では、「博物館開館20周年企画展1」を冠した「化石展」土の中からお宝発見！」を開催します。

宜野湾市は、琉球石灰岩台地の上にあります。琉球石灰岩とは、今から6万年〜50万年前、サンゴの死骸や貝殻などが海底に積もり、固まってできたものです。やがて、地面が海中から地表にあらわれた後、動物の骨などが閉じ込められることによって、リュウキュウジカやリュウキュウヤマガメなどの化石が見つかるのです。現在、これらの動物を宜野湾市で見ることができませんが、化石の発見から、かつては中部でも生活していたことがわかる証拠となるのです。

でも、どうしてこれらが化石として残るのでしょうか？それは、琉球石灰岩の成分には、化石が残しやすいアルカリ性の炭酸カルシウムが含まれてい



るからです。炭酸カルシウムが骨などをコーティングし、昔の動植物の「生きた証」を閉じ込めるので、今私たちが目にする事ができるのです。

このように、私たちの住む宜野湾市に広がる琉球石灰岩。その特性をさらに理解するためには、他の「化石」についても知る必要があります。今回の企画展では、琉球石灰岩よりもさらに古い時代の地層から発見された化石も博物館に集結します。ロビーでは、マンモスの化石がお出迎え。展示室に入れば、アンモナイトの化石が。そして、なんと沖縄初公開となるイナバテナガコガネの化石が北九州の博物館からやってきます。

この夏はぜひ、博物館に遊びに来てください。

◆博物館開館20周年企画展1

化石展「土の中からお宝発見！」

期間 7月24日(水)〜9月22日(日)

休館日 毎週火曜日、
祝祭日(8月12日、9月16日)

場所 市立博物館 企画展示室

入場料 無料

【問合せ】

市立博物館 ☎ 870-9317

